

西東京フィルハーモニーオーケストラ 第38回定期演奏会 出演者プロフィール

指揮 佐伯正則 Conductor Masanori Saeki



© Takashi Fujimotoan

国立音大卒業後指揮活動をはじめ。

99年～00年仙台フィル副指揮者を勤め、外山雄三、梅田俊明両氏のもとで研鑽を積み、東京シティ・フィル、東京フィル、名古屋フィル、愛知室内オケ等を指揮、ヨウコ・ハルヤンネ、宇根京子、川田知子、近藤嘉宏各氏等と共演する。

オペラでは八ヶ岳音楽祭『愛の妙薬』を指揮するほか、G・アルブレヒト、飯守泰次郎、新田ユリ、宮松重紀各氏の副指揮者を務める。

ジュネス青少年音楽祭で円光寺雅彦氏のアシスタントを務め、多くのアマチュアオーケストラを指揮、ナズドラヴィ・フィルとはドヴォルジャーク全交響曲演奏を達成する。近年はワーグナー、ブルックナーの演奏・研究も精力的に行っている。

指揮を新田ユリ氏、トロンボーンを佐藤菊夫、新立憲一、箱山芳樹各氏に師事。自由学園非常勤講師、日本ワーグナー協会会員。

ファゴット独奏 鈴木一志 Fagott Hitoshi Suzuki



東京音楽大学付属高校、同大学を卒業。卒業後、ウィーンに留学。

JDR(日本ダブルリード)、東京オペラシティリサイタルホール、銀座ヤマハサロン、スペースDOでリサイタルを開催。

第6回日本管打楽器コンクール入選。

ファゴットを三田平八郎、霧生吉秀、菅原眸、山上貴司、馬込勇、カール・エルベルガーの各氏に師事。

2006年「ベートーベン 七重奏への誘い」2016年「アゴラ～カスタムウインズ木管五重奏団」CDをリリース。

2019年2月、NHK FM放送 ベストオブクラシックに出演。(カスタムウインズ木管五重奏団)

2020年11月、小林研一郎指揮、日本フィルハーモニー交響楽団とモーツァルトのファゴット協奏曲を共演。広島交響楽団を経て、現在、日本フィルハーモニー交響楽団副首席奏者。洗足学園音楽大学非常勤講師。カスタムウインズ木管五重奏団メンバー。日本ファゴット(バスーン)協会理事。

管弦楽 西東京フィルハーモニーオーケストラ Nishitokyo Philharmonic Orchestra



西東京フィルハーモニーオーケストラは、管弦楽合奏を通じて音楽に親しむこと、そして、地域の音楽文化に貢献することを目的として1998年6月に生まれました。発足当時は保谷フィルハーモニーオーケストラという名称でしたが、2001年の田無市と保谷市の合併により市の名前が西東京市になったことで、現在の名称に改称しました。皆さまの温かいご支援のお陰をもちまして、西東京フィルも創立26周年を迎えることができました。

毎月3回程の練習、年に1回の強化練習(合宿など)、年に2回の公開コンサート、そのほか、市の文化祭への参加、地域の小学校や各種施設へのアウトリーチ活動など、幅広い音楽文化活動を行っています。現在団員は約60

名。学生から80歳をこえるプレイヤーまで年齢層も広く、主婦、学生、会社員とありますが、ともに音楽を楽しみたいという気持ちでひとつになり、アンサンブルを楽しんでいます。

今回のコンサートは、ドヴォルジャークの名曲 交響曲 第7番を17年ぶりに取り上げます。この曲は、ドヴォルジャークが名誉会員となったロンドンフィルハーモニック協会からの委嘱で作曲された交響曲です。

今回は、日本フィルハーモニー交響楽団の副首席ファゴット奏者、鈴木一志さんをお招きして、ファゴットの魅力を存分に聴かせてくれる、エルガーとダヴィッドのすてきな小品をお聴きいただきます。

前プロには、ヴェルディのオペラ「シチリア島の夕べの祈り」序曲、というたいへんお楽しみいただけるプログラムとなっております。

指揮者は、オペラの造詣が深くドヴォルジャークの全交響曲を演奏したことでも知られている佐伯正則先生との初共演です。西東京フィルの演奏が、佐伯先生の目指すすばらしい表現力についていけているか心配ですが、当日の渾身の演奏をお楽しみください。